

入選 大阪府 巽 未空 様 (高校生)

私が「年金」という言葉を意識するようになったのは、中学 3 年生になり、配られた公民の教科書コラムの一つを読んでいたときです。20 歳になった 2 人に保険料の支払いの請求が届くも、「学生だから厳しい」「自分は別にいいだろう」と話し合っている内容でした。その後に年金についての説明が続いていましたが、当時の私は「難しいな、嫌だな」と考えてしまい、よく理解しないままマイナスなものとして捉え続けてきました。しかし、このエッセイを書くにあたって学校で話を聞き、パンフレットを読んで年金について知るうちに、なんて心強い制度なのだろうと胸を打たれました。

年金を受け取れるのは高齢者だけではなく、病気などで障害が残ったり、家庭の働き手が亡くなった場合もあり、私のような若い人にとっても大切な制度だと知りました。つまり、同じぐらいの歳ですでに年金を受け取っている人もいるんだと思ったら、年金は本当にたくさんの人々を支えているんだとひしひしと感じました。世代間の支え合いがこんなにも長くつながっているのは、愛があるからだとは私に思いました。

20 歳でも学生で経済的余裕がないとき、学生の間は保険料を猶予して社会人になってから納めることができる特例制度があると知って安心しました。毎年の申請が必要で、年金を公民の教科書で読んでから一番不安に思っていたことなので、正しく知っておくことができよかったと思いました。免除または猶予期間は勉学に励むことができ、社会人になって働いたときに、人一倍頑張ろうという熱意と感謝の気持ちを持つことができるのではないかと考えました。

誰かの支えとなり、巡り巡って自分の支えにもなってくれる公的年金制度は知れば知るほど温かく、優しいものでした。コロナウイルスや災害など何が起こるか分からない今、想定したくないようなこともしっかりと考え、いざというときにパニックにならず落ち着いた対応ができるよう、自分ごととして捉えることが大切だと思います。そのためにはやはり「知ること」が重要です。私は将来、福祉関係のお仕事に携わりたいと考えているので、年金についてもっと深く知りたいです。

障害年金や遺族年金を受け取っている人は、きっと心は辛いと思います。でも経済的な

辛さは少しでも和らぐのではないかと思います。年金手帳が届いたら、次は自分の番だ、と気合いを入れて前を向こうと思います。